

6年制薬学部の編入学・転学部調査まとめ

資料3  
薬学系人材養成の在り方に関する検討会  
(第17回) H27.2.24

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数							出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計			平成23年度	平成24年度				
北海道医療大学	薬学科	平成19年度							0						<p>現在、3年次への編入学が行われていることから、原則として1年次及び2年次に配当されている科目の単位数を認定している。したがって、編入学生は原則として3年次以上の各学年に配当されている科目を履修することになる。編入学試験の受験資格は理系学部出身者ばかりでなく文系学部出身者にも認められていることから、入学前の修得科目内容及び修得単位数には差があるが、単位認定においては区別しない。</p> <p>2年次までの配当科目のうち、必修科目(講義/演習68.5単位分並びに実習4単位)分については履修済みとして単位数を認定している。また、選択科目については8単位を上限として認定していることから、編入時に認定される単位数は80.5単位である。したがって、編入生が卒業までに修得する単位数は必修科目と選択科目併せて138.5単位となる。</p> <p>単位の認定に当たっては、4月に開催される教務委員会において協議し、最終的に同月の教授会での審議を経て認定される。</p> <p>文系学部出身者も含め編入生は1~2年次に開講される授業科目を受講しないことから、それを補う目的で以下の様な対応を行っている。</p> <p>1) 2年次までに開講された授業を補完するために、編入生を対象とした薬学特別演習&lt;化学・物理化学系&gt;、薬学特別演習&lt;生物・薬理系&gt;を3年前期に開講し、特に基礎薬学領域の学力向上を図っている。また、授業時間以外にも各教員が個別指導を担当している。</p> <p>2) 2年次行われる基礎薬学I及びII実習を補完するために、実習を担当する教員の研究室で編入生を対象とした実習を3年前期に行っている。</p> <p>また、編入生には一人ずつ担任教員(すべて教授)をおき、入学後の学業面及び生活面でのサポート体制を組んでいる。</p>	<p>上述のように、編入生を対象とした補講や実習を授業時間割に組み込んでいることや編入生自身の努力もあり、入学後の成績が優秀な場合が多く見られている。しかしその一方で、文系学部出身者の中には基礎力が十分でないため、入学後の単位修得が難しく留年に至る例も見られている。この点について今後どのように対応していくかが課題となっている。</p>	
		平成20年度			9				9	森林総合科学科、材料創造工学科、企業法学科、生物生産科学科、英米科、物質化学工学科、製薬工学科	・小論文、学力試験(化学、生物)、面接、書類審査【4】 ・学力試験(英語、化学、生物)、面接、書類審査【5】	3年次5名	3年次1名				
		平成21年度			10				10	建築学科、土木工学科、化学科、海洋生物生産科学科、海洋環境学科、臨床福祉学科、国文学科、生物生産科学科	・小論文、学力試験(化学、生物)、面接、書類審査【5】 ・学力試験(英語、化学、生物)、面接、書類審査【5】	なし	3年次3名				
		平成22年度			11				11	合成化学工学科、応用化学科、数学科、薬学科、生物工学科、生物資源利用学科、生命薬科学科、バイオサイエンス学科、環境情報学科	・小論文、学力試験(化学、生物)、面接、書類審査【3】 ・学力試験(英語、化学、生物)、面接、書類審査【8】	なし	なし				
		平成23年度			9				9	合成化学工学科、応用化学科、数学科、薬学科、生物工学科、生物資源利用学科、生命薬科学科、バイオサイエンス学科、環境情報学科	・小論文、学力試験(化学、生物)、面接、書類審査【0】 ・学力試験(英語、化学、生物)、面接、書類審査【9】	なし	なし				
		平成24年度			10				10	生命薬科学科、動物応用科学科、作業療法学科、経済科学科、英文学科、生物科学科、物質化学工学科、応用生命工学科	・小論文、学力試験(化学、生物)、面接、書類審査【2】 ・学力試験(英語、化学、生物)、面接、書類審査【8】	なし	なし				
		平成25年度			9				9	総合人文学科、化学科、応用化学科、薬学科、食品科学科、経営工学科、海洋生産システム学科、応用電子工学科	・小論文、学力試験(化学、生物)、面接、書類審査【2】 ・学力試験(英語、化学、生物)、面接、書類審査【7】	なし	なし				
		計		0	0	58	0	0	0	58	—	—	—	—			

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数							出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計			平成23年度	平成24年度				
青森大学	薬学科	平成19年度							0					単位認定は以前に在籍した大学等における単位取得証明書とシラバスを参考に本学開講科目の内容とおおむね同様のものを履修していることを調査・確認することにより行っている。2年次編入においては本学1年次開講全科目（一般教育科目及び薬学専門科目）の単位を最大で認定することになる。ここで2年次編入に際し一般教育科目（語学、一般教育、体育等）の単位認定については基本的に無条件で認定する方針をとっている。これは専門科目の内容に集中して取り組んでもらうためである。3、4年次への編入は他大学6年制度薬学部3年あるいは4年以上の在籍経験者が該当するが、この場合も単位取得証明書等を参考に単位認定している。	認定する単位の上限は項目5で記したように2年次編入であれば1年次開講全科目の合計単位数となる。単位認定のための照らし合わせ作業は薬学部教務委員会で行い、最終的に4月の教授会で審議して決める。認定の方法は以前に在籍した大学等における単位取得証明書・シラバスを参考に、本学開講科目の内容とおおむね同様のものを履修・理解しているかを調査・確認するものである。なお2年次に編入する場合、本学の2年次開講科目の一部について履修している場合もあるが、この場合は本学で再度履修させている。3、4年次編入においても、基本的に2年次編入と同様の方法等をとっている。	編入学生には入学が決まったのち「入学前教育（平成25年度は東進ハイスクールのシステムを採用）」の指定科目を受講させる。さらに編入学直後オリエンテーションに参加させ今後の教務上の流れについて学ぶ機会を持たせる。本学では担任制を敷き勉強上あるいは生活面で困ったことがあれば逐一担任教員に相談してもらうことにしている。なお講義時間帯が許せば2年次編入生は1年次開講の専門科目の講義を聴講することができる。3年次以降も時間的に余裕があれば同様である。	編入学生の受け入れは、能力を持つ人材を広く受け入れて無駄なく育てあげるという意味から、大学にとって非常に重要なことである。本学の場合大半が2年次への編入である。ここには社会人経験者が多く、大学を卒業してから5年以上経過している場合もある。このような場合、専門基礎科目（化学、生物、物理等）の内容を忘れていることも多く、学部としては希望者に対して専門科目の基礎的内容を編入学直後に短期間で教える（思い出してもらう）コースを早急に作る必要があると考え現在検討中である。
		平成20年度						0									
		平成21年度		1					1	化学科		なし	なし				
		平成22年度		7					7	応用生命工学科、臨床心理学科、法律科、薬学科、情報システム工学科、社会学科		なし	なし				
		平成23年度		9			3		12	小学校教員養成課程、社会学科、法律科、健康・スポーツ教育科、工業化学科、経済学科、物理学科、薬学科（2年次） 臨床薬学科、薬学科、情報学科（4年次）	小論文、面接、書類審査	なし	なし				
		平成24年度		11	1	2		14	応用生命工学科、国際ファッション文化学科、薬学科、地球環境学科、人文学科、応用分子化学科、生物生産工学科、医学科、歯科技工士学科、生物機能学科、社会福祉学科（2年次） 薬学科（3年次） 薬学科、創薬学科（4年次）	なし		なし					
		平成25年度		6			2		8	物理学科、臨床検査学科、学校教育教員養成課程小学校教育専攻、産業システム工学専攻、応用化学科、応用生命工学科（2年次） 生命薬学科（4年次）		なし	なし				
計	0	34	1	7	0	0	42	—	—	—		—					
東北薬科大学	薬学科	平成19年度		7				7	環境土木工学科、法律学科、英語科、建築・社会環境工学科、食料生産科学科、応用化学科、工学基礎学類	前期日程 学力試験（化学、英語）、小論文、面接【5】 後期日程 学力試験（化学、英語、数学）、面接【2】		2年次6名	2年次1名	平成19年度に7名が編入試験で2年次に入学し、規定上60単位まで認定できる事になっている。しかし、薬学教育の専門科目についての認定は難しいので、教養科目に限って認定を行う事を原則とした。	他大学を卒業又は中途退学し一定の単位を取得した者に対しては、60単位を限度として認定している。認定にあたっては、出身大学の成績証明書を基に担当科目教員が面接及び書類審査し最終的に教授会で認定した。	本学では、平成19年度に定員に欠員が生じたため7名を編入学させたが、文系出身者も多いことから薬学専門科目の基礎科目のうち数科目については、前期の講義期間中特別な補講を実施した。この補講は正規のカリキュラムでは無く担当教員の理解によるものである。学生も勉学意欲充分で非常に教育効果が上がり、1名を除き全員が卒業している。しかし、その後入学定員を充足しているため編入学は実施していない。	
		平成20年度						0									
		平成21年度						0									
		平成22年度						0									
		平成23年度						0									
		平成24年度						0									
		平成25年度						0									
		計	0	7	0	0	0	0	7	—	—	—	—				

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数						出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等		
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			計	平成23年度					平成24年度	
いわき明星大学	薬学科	平成19年度											既修得単位の認定については、卒業に必要な科目に限るものとする。単位の認定は定められた範囲以内において原則として包括認定(定められた単位数の範囲内で科目にかかわらずまとめて単位の認定)を行い、必要に応じて科目認定(他大学等で取得した単位を本学の科目に読み替え認定)をすることができる。	1年次は学則に定められた全学共通教育科目についての30単位の範囲以内において包括認定及び科目認定する。2～4年次は卒業に必要な科目において、2年次は30単位の範囲以内、3年次は62単位の範囲以内、4年次は93単位の範囲以内において包括認定及び科目認定し、また、教育上有益と認めるときは、科目認定にてこの範囲を超えて設定できる。科目認定は既修得科目の教育内容が本学で定める科目名と同一であり、単位数においても同一であると判断できる場合は認定する。複数の既修得科目及びその単位数を合わせるにより、本学で定める科目名の科目と教育内容が同一となり、単位数においても同一となると判断され、かつ、教育上有益であると認められるときは、認定する。	学年主任が中心となり、科目担当教員へ科目認定した科目についての履修内容が把握されているかの確認を行い、編入学生のフォローを行っている。	薬学関係ではない学部(主として文系の学部)からの編入学生に対する化学系・生物系・物理系の基礎科目未修得についての指導。		
		平成20年度		4					4	歯学科、獣医学科、生物工学科、生物学科	学力検査(英語、数学、化学)、小論文、面接、書類審査	なし					2年次2名	
		平成21年度		3						3	医療薬学科、化学科、法学科	なし					なし	
		平成22年度		7	1					8	医療薬学科、情報システム工学科、情報数理学科、食物学科、数理科学科、物質化学工学科、物質工学科(2年次)薬学科(3年次)	面接、書類審査					なし	なし
		平成23年度		3		5				8	経営情報学科、数理情報学科、福祉情報学科(2年次)薬学科5名(4年次)						なし	なし
		平成24年度		3			6			9	応用生物化学科、教育学科、現代経済過程学科(2年次)生命薬科学科5名、薬学科(4年次)						なし	なし
		平成25年度		2			9			11	家政学科、国際経済学科(2年次)生命薬科学科5名、薬学科3名、薬科学科(4年次)						なし	なし
		計	0	22	1	20	0	0	43	—	—	—					—	
奥羽大学	薬学科	平成19年度							0				2年次科目の出席状況・成績が良好であること。	前項の基準を満たしている学生に対して、教授会で審議後、年度末に一括して1年次配当48単位を認定している。	1年次開講科目の「化学」「物理化学Ⅰ」「有機化学Ⅱ」を聴講させている。また、各編入学生にアドバイザー教員を充て、学習状況をフォローしている。			
		平成20年度							0									
		平成21年度							0									
		平成22年度							0									
		平成23年度		6						6	保健学科、物質応用化学科、文科学科、コミュニケーション学科、経済学科、精密機械工学科	小論文、面接					なし	なし
		平成24年度		9						9	フランス文学科、薬学科(4名)、電気電子工学科、家政学科、日本史学科、コミュニティデザイン学科	なし					なし	
平成25年度		7						7	薬学科、医療薬学科、物質工学科、心理学科、健康科学科、数理科学科、経営学科	なし	なし							
計	0	22	0	0	0	0	22	—	—	—	—							
日本薬科大学	医療薬学科	平成19年度							0				教養科目や語学系科目については、可能な限り単位認定することとしている。専門科目については、修得科目の内容を詳細に検討し、単位認定するかどうか慎重に判断している。実習系科目は、専門教育の内容に合致するもののみ単位認定する。受け入れ年次については、修得単位数を参考にしながら慎重に判断する。	編入学年以前の単位数のみ認定する。単位認定の検討は教務委員会の複数の担当者が確認し、教務委員会での検討を経て、教授会で審議している。	アドバイザー(担任教員)に編入学生の情報を伝え、編入学前の履修状況、編入学に至った経緯等を含めて担任がきめ細かい指導を行っている。また、編入学生に関する情報は、各種会議体を通じて全教員に伝達されており、講義や実習を含めて円滑な学修機会が担保できるよう配慮している。			
		平成20年度							0									
		平成21年度							0									
		平成22年度							0									
		平成23年度		1	1					2	法学科(2年次)薬学科(3年次)	科目試験(有機化学系・物理化学系・生化学系・薬理学系)面接・書類審査【1】科目試験(化学系・生物系)面接・書類審査【1】					なし	なし
		平成24年度				1				1	薬学科(3年次)	科目試験(化学系・生物系)面接・書類審査					なし	なし
平成25年度								0										
計	0	1	2	0	0	0	3	—	—	—	—							

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数							出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計			平成23年度	平成24年度				
日本薬科大学	漢方薬学科	平成19年度			/	/	/	/	0					教養科目や語学系科目については、可能な限り単位認定することとしている。専門科目については、修得科目の内容を詳細に検討し、単位認定するかどうか慎重に判断している。実習系科目は、専門教育の内容に合致するもののみ単位認定する。受け入れ年次については、修得単位数を参考にしながら慎重に判断する。	編入学年以前の単位数のみ認定する。単位認定の検討は教務委員会の複数の担当者が確認し、教務委員会での検討を経て、教授会で審議している。	アドバイザー(担任教員)に編入学生の情報を伝え、編入学前の履修状況、編入学に至った経緯等を含めて担任がきめ細かい指導を行っている。また、編入学生に関する情報は、各種会議体を通じて全教員に伝達されており、講義や実習を含めて円滑な学修機会が担保できるよう配慮している。	
		平成20年度			/	/	/	0									
		平成21年度				/	/	0									
		平成22年度					/	0									
		平成23年度		2					2	薬学科、海洋自然科学科	科目試験(化学系・生物系)面接・書類審査						
		平成24年度							0								
		平成25年度							0								
計	0	2	0	0	0	0	2	-	-	-	-						
日本薬科大学	薬学科	平成19年度			/	/	/	/	0					教養科目や語学系科目については、可能な限り単位認定することとしている。専門科目については、修得科目の内容を詳細に検討し、単位認定するかどうか慎重に判断している。実習系科目は、専門教育の内容に合致するもののみ単位認定する。受け入れ年次については、修得単位数を参考にしながら慎重に判断する。	編入学年以前の単位数のみ認定する。単位認定の検討は教務委員会の複数の担当者が確認し、教務委員会での検討を経て、教授会で審議している。	アドバイザー(担任教員)に編入学生の情報を伝え、編入学前の履修状況、編入学に至った経緯等を含めて担任がきめ細かい指導を行っている。また、編入学生に関する情報は、各種会議体を通じて全教員に伝達されており、講義や実習を含めて円滑な学修機会が担保できるよう配慮している。	
		平成20年度			/	/	/	0									
		平成21年度				/	/	0									
		平成22年度					/	0									
		平成23年度						0									
		平成24年度		2					2	薬学科、ビジネス学科	科目試験(化学系・生物系)面接・書類審査	なし	なし				
		平成25年度							0								
計	0	2	0	0	0	0	2	-	-	-	-						
城西国際大学	医療薬学科	平成19年度			/	/	/	/	0					編入学前に取得済み(見込みを含む)の単位について、科目名・科目内容と成績を確認し、シラバス等に従って読み替え可能性を検討する。原則として、他大学で認定されている単位を、成績の基準に照らして、未修得とすることはない。本学の学年進行に照らし合わせた際に、学年ごとの未修得科目数が4つ以上にならないことを勘案し、編入学年次を設定する。編入可能な最高学年は4年次であり、編入学年次以降に配当される科目は原則履修するものとしている。	上記5の検討結果と入学時点での単位修得済み科目をもとに、編入学が認められた学生について、教授会にて単位認定を承認する。認定する単位数の上限は特に設けていない。	編入学後には、学年ごとの教科ガイダンスにて、教育の全体像、教育方針などを示している。またアドバイザー・アドバイザー制度により、個別の履修内容を伝達し、履修登録に不備のないようにしている。編入学した後に、下位学年の科目履修が必要な場合には、履修に無理が生じないように時間割等の配置を配慮する場合もある。その後も、アドバイザー教員、教務担当教員、学部事務が、必要に応じて対処し、編入学による不当な不利益のない状況を構築している。	
		平成20年度			/	/	/	0									
		平成21年度				/	/	0									
		平成22年度		1		1			2	薬学科(2年次) 医療薬学科(4年次)		なし	4年次1名				
		平成23年度		2		4			6	情報工学科、医学科(2年次) 薬科学科3名、薬学科(4年次)	書類審査、科学基礎テスト(数学I、化学I、生物Iから各2題、計6題の出題より4題を自由選択)、小論文、面接	なし	なし				
		平成24年度		1		1			2	医療薬学科(2年次) 生命創薬学科(4年次)		なし	なし				
		平成25年度				2	6		8	薬科学科2名(3年次) 生命薬科学科2名、生命創薬科学科2名、薬科学科、薬学科(4年次)		なし	なし				
計	0	4	2	12	0	0	18	-	-	-	-						

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数						計	出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等	
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次				平成23年度	平成24年度					
千葉科学大学	薬学科	平成19年度							0					講義内容が、本学における開講科目の内容に準ずると認められ、かつ、本学の該当科目の所定の単位数以上を修得している場合(修得しているとみなされる場合を含む。)に限り、本学で開講されている授業科目の単位として認定することができる。	・認定する単位の上限は設けていない。 ・当該授業科目を担当する教員を中心に当該学生の所属する学科が審査を行う。 ・審査結果を当該学生の所属する学部の教授会において審議し、認定を行う。			
		平成20年度							0									
		平成21年度								0								
		平成22年度				1	2			3	薬科学科(4年次)、薬学科(3年次)	学力試験(薬学教育モデルコアカリキュラムに準ずる内容)	なし					4年次2名
		平成23年度					8			8	薬科学科(4年次)		なし					なし
		平成24年度								0								
		平成25年度					1			1	薬科学科(4年次)							
計		0	0	1	11	0	0	12	—	—	—	—						
帝京平成大学	薬学科	平成19年度							0					本薬学部では、2年次への編入を行っている。既修得単位の認定は、希望学生が在籍していた大学のシラバスの内容を精査し可否を決定している。6年制薬学部1年次に配当されている必修科目(例えば薬学への招待、早期体験学習、及び本学の全学科共通必修科目であるフレッシュセミナー科目など)については、2年次以降に修得が可能であるか審査している。	認定する単位の上限は30単位。薬学部の教務部会(薬学部の教務案件を扱う部会)で、シラバスを基に審査する。	薬学部1年次の必修科目の履修方法について個別に指導している。	平成27年度から、6年制薬学教育のカリキュラムの改訂が予定されているが、改訂カリキュラムでは、1年次からの順次・体系的履修や、繰り返しの履修によって薬剤師としての資質を備えることが大切な目標とされている。また、高学年で未修得単位を取得することは単位制の考え方でもあり、学年制を採用している薬学教育にはなじまない。従って、平成27年度以降においては、他薬系大学からの編入希望者を除き、編入学は縮小する方向で考えている。	
		平成20年度							3	バイオサイエンス学科、経済学科、化学科(2年次)		なし	2年次1名					
		平成21年度								1	薬学科(2年次)	【平成19年度～平成24年度入試】 ・書類選考 ・学力試験(英語・数学・生物・化学より3科目選択) ・面接	なし					なし
		平成22年度								1	薬学科(2年次)		なし					なし
		平成23年度								0								
		平成24年度								1	物質応用化学科(2年次)		なし					なし
		平成25年度								0								
計		0	6	0	0	0	0	6	—	—	—	—						
東邦大学	薬学科	平成19年度							3	物質生物工学科、応用化学科、化学科(2年次)	編入学試験 一次試験 書類選考 二次試験 英語・数学・化学の基礎的事項の筆記テスト、小論文、面接	2年次3名	なし	編入学の入学年次は2年次のみであり、薬学部1年次の必修科目に相当する単位を取得した者(取得見込みの者を含む)を出願資格の条件としている。	1年次の必修科目については出願時に入学試験委員会・教務委員会で検討し、全科目の単位認定を行う。選択科目や2年次必修科目については、入学後に、単位認定申請書を成績証明書やシラバスと共に提出し、教務委員会で認められた場合に単位認定を行う。	編入学生に限らず全学生に担任を割りあて、個別に指導・相談できる体制にしている。		
		平成20年度							0									
		平成21年度								1	薬学科(2年次)		なし					なし
		平成22年度								2	物質生命理工学科、生命薬科学科(2年次)	編入学試験 一次試験 書類選考 二次試験 英語・数学・化学の基礎的事項の筆記テスト、小論文、面接	なし					なし
		平成23年度								1	医学科(2年次)		なし					なし
		平成24年度								1	放射線学科(2年次)		なし					なし
		平成25年度								2	化学科、生命科学科(2年次)		なし					なし
計		0	10	0	0	0	0	10	—	—	—	—						

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数						計	出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次				平成23年度	平成24年度				
日本大学	薬科	平成19年度		6	/	/	/	/	6	短期大学部応用化学科(2年次)	書類選考、面接	2年次4名	2年次2名	出身学科の修得科目と本学部の設置科目の内容を比較認定。	上限は定めていない。学務委員会で選定し、教授会で承認。	編入学時に履修方法等について個別のガイダンスを行う。	1年次から必修科目が配置されているので、無理なく履修できるように時間割編成に工夫が必要。
		平成20年度		2	/	/	/	2	短期大学部応用化学科(2年次)	なし		2年次2名					
		平成21年度		1	/	/	/	1	短期大学部応用化学科(2年次)	なし		なし					
		平成22年度		1	/	/	/	1	短期大学部応用化学科(2年次)	なし		なし					
		平成23年度		1	/	/	/	1	短期大学部応用化学科(2年次)	なし		なし					
		平成24年度		1	/	/	/	1	短期大学部応用化学科(2年次)	なし		なし					
		平成25年度		1	/	/	/	1	短期大学部生命・物質化学科(2年次)	なし		なし					
		計	0	13	0	0	0	0	13	—		—	—				
東京大学	薬学科	平成19年度		/	/	/	/	0		面接、書類審査			他学部履修や聴講生などの制度により、入学前に履修した本学部授業科目の単位を認定する。	他学部履修や聴講生などの制度により、入学前に履修した本学部授業科目の単位を、教授会において認定する。	特に無し。	本研究科の修士課程または博士課程を修了し、かつ事前学習、共用試験、長期実務実習以外のモデルコアカリキュラムに対応した授業科目を履修したものについては、5年次に編入させることを検討中である。	
		平成20年度		/	/	/	/	0									
		平成21年度		/	/	/	/	0									
		平成22年度		/	/	/	/	0									
		平成23年度				1		1	薬科学科(学士入学)		なし	なし					
		平成24年度				1		1	薬科学科(学士入学)		なし	なし					
		平成25年度				1		1	薬科学科(学士入学)		なし	なし					
		計	0	0	0	3	0	0	3		—	—					—
北里大学	薬学科	平成19年度		2	/	/	/	/	2	経済学科、化学科(2年次)	学力試験(化学、英語、数学)、小論文、面接、書類審査	2年次2名	なし	●単位認定の考え方: 教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる(学則第23条) ●単位認定の基準: 入学時に他大学で修得した単位に係る成績証明書又は単位取得証明書を提出させ、科目ごとに本学部の開講科目と内容を比較する。	●認定する単位の上限:60単位 ●単位認定を行う組織:教授会 ●認定の方法: 入学時に他大学で修得した単位に係る成績証明書又は単位取得証明書、およびシラバスの写を提出させ、科目ごとに本学部の開講科目と内容を比較し、認定の可否を教授会で審議する。		
		平成20年度		5	/	/	/	/	5	口腔保健学科、森林資源科学科、物質生物科学科、物質生物科学科、人文社会学科(2年次)		なし	2年次3名				
		平成21年度		3	/	/	/	/	3	生命理学科、観光学科、薬学科(2年次)		なし	なし				
		平成22年度		2	/	/	/	/	2	経済学科、管理工学科(2年次)		なし	なし				
		平成23年度		4	/	/	/	/	4	理工学研究科、法学科、応用物理学科、数学科(2年次)		なし	なし				
		平成24年度		3	/	/	/	/	3	商学科、生物生産科学科、経済学科(2年次)		なし	なし				
		平成25年度		1	/	/	/	/	1	環境科学研究科(2年次)		なし	なし				
		計	0	20	0	0	0	0	20	—		—	—				—

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数						計	出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次				平成23年度	平成24年度				
明治薬科大学	薬学科	平成19年度							0					(1)編入年次の前学年次までに履修する必修科目の単位は全て認定する。 (2)上記以外の科目の認定を受けようとする場合は、指定期日迄に単位認定願を出身校の学業成績証明書を添えて願い出なければならない。	編入年次の前学年次までに履修する必修科目以外の認定単位数上限は、60単位を越えない範囲であり、申請があれば教授会の議を経て、学長が認定する。	編入年次の前学年次までに履修する必修科目は単位認定されるが、編入学生が希望すれば当該講義の聴講を可能な限り認めている。	
		平成20年度		1	1				2	衛生薬学科中退(2年次) 理工学研究科応用化学専攻 大学院博士前期課程修了者 (3年次)	なし	2年次1名					
		平成21年度		2	1				3	文学研究科比較文明学専攻 大学院修了者、管理工学科 (2年次) 薬学科(3年次)	なし	3年次1名					
		平成22年度		1	2				3	生物生産環境学科(2年次) 先端科学技術大学院修了 者、物質生物科学科(3年次)	学力試験(英語、数学、化学)、個別面接、書類審査	なし	なし				
		平成23年度				1			1	生命創薬科学科(3年次)		なし	なし				
		平成24年度				1			1	生物資源科学科(3年次)		なし	なし				
		平成25年度			1	1			2	電子工学科(2年次) 医学研究科医科学専攻大学 院修了者(3年次)		なし	なし				
		計	0	5	7	0	0	0	12	-	-	-	-				
横浜薬科大学	健康薬学科	平成19年度							0					本学は、学部に欠員がある場合に限り、教授会の議を経て編入学を許可しています。出願資格は次のいずれかに該当する者としています。 (1) 大学を卒業し学士の称号および学位を有する者および卒業見込みの者 (2) 短期大学、高等専門学校を卒業した者としています。 編入学年は(1)に該当する者で原則として3年次以下、ただし4年制薬学部を卒業し、学士を有する者または卒業見込みの者は4年次以下(2)に該当する者は原則として2年次以下を基本としています。 編入学の可否は、約75%の既修得科目、単位数を保有し、希望する編入学年次の認定試験に合格することを必要としています。既修得科目の本学科目との互換性や、既修得単位数によっては、希望する年次より低い年次への編入学となります。	既修得科目、単位数として申請のあった本学科目は、該当科目の教員が科目内容の共通性、互換性および教育上の有益性を検討し認定の可否を審査しますが、認定する単位数の上限は、在学年を通し最大でも60単位以下とします。またこの認定において修業年限の短縮は行いません。	単位認定の審査結果が確実になるまで該当科目を受講させています。書類審査での可否が困難な場合、面接、口頭試験、場合により簡単な筆記試験を実施し可否を決定しています。また認定科目の成績評価、単位認定は学年修了時点でを行い、出身大学の成績評価の平均値を充当し換算しています。希望すれば認定科目を受講することはできません。(履修登録はできません)	本学は、先述のとおり、学部に欠員がある場合に限り、教授会の議を経て編入学を許可しています。そのため公募による編入学制度はなく、人数も少ないことから、あくまで例外的な制度として維持しており、編入学生にとって特別に優遇される定型プログラムはありません。
		平成20年度		1					1	医療薬学科(2年次)	学力試験(化学、生物、薬学総合)、小論文、面接、書類審査	なし	2年次1名				
		平成21年度		2					2	健康薬学科、健康薬学科(2年次)		なし	なし				
		平成22年度							0								
		平成23年度		2	1				3	生物学科、応用化学科(2年次) 薬学科(3年次)		なし	なし				
		平成24年度		2			1		3	応用化学科、健康薬学科(2年次) 薬学科(4年次)	学力試験(化学、生物、薬学総合)、小論文、面接、書類審査	なし	なし				
		平成25年度				1	1		2	基礎生命化学科(3年次) 創薬科学科(4年次)		なし	なし				
		計	0	7	2	2	0	0	11	-	-	-	-				

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数							出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計			平成23年度	平成24年度				
横浜薬科大学	臨床薬学科	平成19年度							0					<p>本学は、学部欠員がある場合に限り、教授会の議を経て編入学を許可しています。出願資格は次のいずれかに該当する者としています。</p> <p>(1) 大学を卒業し学士の称号および学位を有する者および卒業見込みの者</p> <p>(2) 短期大学、高等専門学校を卒業した者としています。</p> <p>編入学年は</p> <p>(1) に該当する者で原則として3年次以下、ただし4年制薬学部を卒業し、学士を有する者または卒業見込みの者は4年次以下</p> <p>(2) に該当する者は原則として2年次以下を基本としています。</p> <p>編入学の可否は、約75%の既修得科目、単位数を保有し、希望する編入学年次の認定試験に合格することを必要としています。既修得科目の本学科目との互換性や、既修得単位数によっては、希望する年次より低い年次への編入学となります。</p>	既修得科目、単位数として申請のあった本学科目は、該当科目の教員が科目内容の共通性、互換性および教育上の有益性を検討し認定の可否を審査しますが、認定する単位数の上限は、在学年を通し最大でも60単位以下とします。またこの認定において修業年限の短縮は行いません。	単位認定の審査結果が確実になるまで該当科目を受講させています。書類審査での可否が困難な場合、面接、口頭試験、場合により簡単な筆記試験を実施し可否を決定しています。また認定科目の成績評価、単位認定は学年修了時点で行い、出身大学の成績評価の平均値を充当し換算しています。希望すれば認定科目を受講することはできません。(履修登録はできません)	本学は、先述のとおり、学部欠員がある場合に限り、教授会の議を経て編入学を許可しています。そのため公募による編入学制度はなく、人数も少ないことから、あくまで例外的な制度として維持しており、編入学生にとって特別に優遇される定型プログラムはありません。
		平成20年度		2					2	化学科(2年次) 生命バイオ工学科(3年次)	学力試験(化学、生物、薬学総合)、 小論文、面接、書類審査	なし	2年次1名				
		平成21年度							0								
		平成22年度		1	2				3	薬学科(2年次) 医療薬学科、薬学科(3年次)	学力試験(化学、生物、薬学総合)、 小論文、面接、書類審査	なし	なし				
		平成23年度							0								
		平成24年度							0								
		平成25年度					1		1	創薬科学科(4年次)	学力試験(化学、生物、薬学総合)、 小論文、面接、書類審査	なし	なし				
		計	0	3	2	1	0	0	6	—	—	—	—				
横浜薬科大学	漢方薬学科	平成19年度							0					<p>本学は、学部欠員がある場合に限り、教授会の議を経て編入学を許可しています。出願資格は次のいずれかに該当する者としています。</p> <p>(1) 大学を卒業し学士の称号および学位を有する者および卒業見込みの者</p> <p>(2) 短期大学、高等専門学校を卒業した者としています。</p> <p>編入学年は (1) に該当する者で原則として3年次以下、ただし4年制薬学部を卒業し、学士を有する者または卒業見込みの者は4年次以下(2) に該当する者は原則として2年次以下を基本としています。</p> <p>編入学の可否は、約75%の既修得科目、単位数を保有し、希望する編入学年次の認定試験に合格することを必要としています。既修得科目の本学科目との互換性や、既修得単位数によっては、希望する年次より低い年次への編入学となります。</p>	既修得科目、単位数として申請のあった本学科目は、該当科目の教員が科目内容の共通性、互換性および教育上の有益性を検討し認定の可否を審査しますが、認定する単位数の上限は、在学年を通し最大でも60単位以下とします。またこの認定において修業年限の短縮は行いません。	単位認定の審査結果が確実になるまで該当科目を受講させています。書類審査での可否が困難な場合、面接、口頭試験、場合により簡単な筆記試験を実施し可否を決定しています。また認定科目の成績評価、単位認定は学年修了時点で行い、出身大学の成績評価の平均値を充当し換算しています。希望すれば認定科目を受講することはできません。(履修登録はできません)	本学は、先述のとおり、学部欠員がある場合に限り、教授会の議を経て編入学を許可しています。そのため公募による編入学制度はなく、人数も少ないことから、あくまで例外的な制度として維持しており、編入学生にとって特別に優遇される定型プログラムはありません。
		平成20年度							0								
		平成21年度		1					1	漢方薬剤科(2年次)	学力試験(化学、生物、薬学総合)、 小論文、面接、書類審査	なし	なし				
		平成22年度		1					1	農芸化学科(2年次)		なし	なし				
		平成23年度		1					1	薬学科(2年次)		なし	なし				
		平成24年度		2	1				3	バイオサイエンス学科、薬学科(2年次) 中薬課(3年次)		なし	なし				
		平成25年度				2			2	中薬課、薬学科(3年次)		なし	なし				
		計	0	5	3	0	0	0	8	—	—	—	—				



大学名	学科名	編入学年度	編入学生数						出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等	
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			計	平成23年度					平成24年度
新潟薬科大	薬学科	平成19年度			/	/	/	/						<p>入学後次年度への進級に支障がないよう、入学試験合格後(入学前)に、編入年次を決定している。現在2年次への受入れのみであるが、2年次への進級要件(必修科目の未修得単位数が5単位を超えた場合は進級できない)及び卒業要件の一部(教養選択科目3単位以上修得)と照らして、必修科目29単位中23単位以上、教養選択科目1単位以上を履修済みとして認定できる場合に、2年次への編入を認めている。</p> <p>履修済みか、否かの判定基準(履修認定基準)は、①本学部科目と前所属学部における既修得科目のシラバス記載の授業計画のうち7割以上の授業において授業内容の一致がみられる科目であること、または②本学部科目と前所属学部における既修得科目のシラバス記載の学習到達目標(SBOs)のうち7割以上のSBOsにおいて一致が見られることとする。本学部履修規程で、定期試験の受験資格を3分の2以上の授業の出席と規定していることから、単位認定試験受験資格、すなわち履修認定基準で7割以上と定めている。</p> <p>編入学後に、履修認定科目について学力検査を行い、60%以上の得点で合格とし、単位認定する。</p> <p>認定基準に達しず、単位認定されなかった科目については、再履修して修得しなければならない。</p> <p>結果的に、知識に関する学習領域と技能に関するものの一部については履修認定・単位認定をし、態度の学習領域に関する授業や薬学準備教育に関する授業は入学後に履修することとなる。</p>	<p>教務委員会において、提出された既修得科目のシラバスと本学部シラバスを照らし合わせて、教授会で決定された前述の履修認定基準に従って、編入年次を判定する。その後教授会に諮り決定する。</p> <p>単位の認定は、科目担当教員が試験(実技試験等を含む)を行い判定する。その後、教務委員会及び教授会の議を経て決定する。</p>	<p>履修認定されなかった1年次科目については、当該学生の授業の行われていない時間に、集中講義形式等で別途授業を行う。また、入学後に別途受講が難しい実習科目等については、入学前の春休みに実習を行うなど、2年次に未履修の科目がないよう配慮している。</p> <p>履修認定された科目及び単位認定された科目についても、時間に余裕がある場合は、積極的に聴講するよう指導している。また、本人の希望があれば、単位認定された科目についても再履修を認めている。</p>	
		平成20年度		2		/	/	/	工学部機械システム工学科、生活科学部生活文化学科	基礎学力調査(外国語または数学、及び化学)、小論文、面接、書類審査	なし	2年次1名					
		平成21年度					/	/									
		平成22年度			3			/	工学部応用化学科、理学部生命理学科、応用生命科学部食品学科	基礎学力調査(外国語または数学、及び化学)、小論文、面接、書類審査	なし	なし					
		平成23年度			3			工学部電子システム工学科、理学部情報科学科、薬学部薬学科	なし		なし						
		平成24年度			3			食品栄養科学部食品学科、経済学部第1部経済学科、医学部保健学科検査技術科学専攻	なし		なし						
		平成25年度			2			応用生命科学部応用生命科学科、応用生命科学部応用生命科学科	なし		なし						
計	0	13	0	0	0	0	13	-	-		-	-					

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数						出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等			
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			計	平成23年度					平成24年度		
愛知学院大学	医療薬学科	平成19年度		3					3	史学科、水産学科、応用生物科学科	学力試験(英語、数学および理科)小論文、面接	2年次1名	なし	編入前の大学で取得した単位の講義科目が、本学の講義科目と一致する場合は、講義内容を確認した上で、単位を認める。	編入前の大学で取得した単位の講義科目で、本学薬学部講義科目に該当するものがあるか、確認し、選定する。該当科目がある場合、その科目について、本学薬学部担当教員がシラバスをみて講義内容を確認する。講義内容が十分充足されている講義科目については、本学薬学部教務委員会の議を経て、教授会で承認された後、単位認定する。	単位認定された講義科目であっても、日程的に受講可能であれば復習を兼ねて受講するよう指導して。また、できるだけはやく、本学に慣れるよう支援するとともに積極的に学友を作るよう指導している。	大学によっては、一般入試より編入学試験の方が合格しやすいケースがあり、編入学制度を難関大学に入学するための手段(受験の1つ)として活用している受験生がいることから、編入学制度が本来の目的から逸脱しはじめている点が問題である。		
		平成20年度							0										
		平成21年度							0										
		平成22年度							0										
		平成23年度			3					3	アジア太平洋マネジメント学科、応用化学科、キャリアデザイン学科	学力試験(英語、数学および理科)小論文、面接	なし					なし	
		平成24年度								0									
		平成25年度			1					1	臨床薬学科	学力試験(英語、数学および理科)小論文、面接	なし					なし	
計		0	7	0	0	0	0	7	—	—	—	—							
金城学院大学	薬学科	平成19年度							0					単位認定には、特定認定と一括認定とがあり、共通教育科目は、卒業に必要な最低修得単位数を上限に、原則各科目区分ごと一括認定とする。専門教育科目は授業内容、授業時間数、単位数に基づき特定認定する。学部の判断により、一括認定することも可能。	認定単位数の上限は110単位。学科教務委員会が単位認定案を作成し、教授会で審議・承認する。	編入学する学年より下級学年において未修得の科目があり、当該学年の科目と時間割が重複する場合は、当該科目を特別開講し、対応する。			
		平成20年度							0										
		平成21年度					1			1	創薬科学科	学力試験(英語<薬学英語>専門科目<有機化学、生化学、物理化学、薬理学、生薬学から3科目選択>面接	なし				なし		
		平成22年度								0									
		平成23年度								0									
		平成24年度								0									
		平成25年度					2			2	創薬科学科	学力試験(英語<薬学英語>専門科目<有機化学、生化学、物理化学、薬理学、生薬学から3科目選択>面接	なし				なし		
計		0	0	0	3	0	0	3	—	—	—	—							
大阪薬科大学	薬学科	平成19年度							0					大学、短大、高専で修得した単位を本学の科目に読み替え認定している。	当該学生のシラバス、成績証明書により授業内容、単位数を確認の上、本学の読み替え科目の担当者の意見を付けて教授会で審議し認定する。認定単位数に上限を設けていない。	編入時に読み替えができなかった科目が下位年次科目で現年次の科目と履修時間帯が重複する際は個別指導を行っている。			
		平成20年度		1					1	工学部機械系学科	学力試験(基礎有機化学・基礎生物学・基礎化学・英語・数学)、面接	なし	なし						
		平成21年度								0									
		平成22年度		1						1	工芸科学部応用生物学課程	学力試験(基礎有機化学・基礎生物学・基礎化学・英語・数学)、面接	なし				なし		
		平成23年度								0									
		平成24年度					8			8	薬学部薬科学科	面接	なし				なし		
		平成25年度		1						1	理工学部応用科学科	学力試験(基礎有機化学・基礎生物学・基礎化学・英語・数学)、面接	なし				なし		
計		0	3	0	8	0	0	11	—	—	—	—							

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数							出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等	
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計			平成23年度	平成24年度					
神戸学院大学	薬学科	平成19年度	2						2	英語英文学科、法律学科	書類(各種証明書)審査、筆記試験(英語、化学)、面接	なし	1年次2名	学部教授会にて決定。	●2年次生への編入学者 ①「共通教育科目」から12単位を一括認定。 ②1年次配当の「基礎教育科目」より7.5単位、「専門教育科目」より必修科目7.5単位・その他の科目12単位(「生と死」を除く)、合計27単位を一括認定。 ●3年次生への編入学者 ①「共通教育科目」から12単位を一括認定。 ②1年次配当の「基礎教育科目」より8単位(「早期や意見学習」を除く)、「専門教育科目」より必修科目4単位・その他の科目16単位(「生と死」を除く)、合計28単位を一括認定。 ③2年次配当の「基礎教育科目」より2単位、「専門教育科目」より必修科目10単位・その他の科目20単位、合計32単位を一括認定。	特段なし。(新入生と新入生ガイダンスの一部を受けてもらう程度)		
		平成20年度		1					1	分子生命科学科		なし	2年次1名					
		平成21年度							0									
		平成22年度			2					2	保健学科、ロシア学科	書類(各種証明書)審査、筆記試験(1年次および2年次配当科目の「専門教育科目」すなわち下記の3科目群「物性薬学科群」「分子薬学科群」「生命薬学科群」から各1科目の3科目。)	なし					なし
		平成23年度				1				1	創薬科学科		なし					なし
		平成24年度				1	1			2	生命科学科(2年次) 生物情報科学科(3年次)	書類(各種証明書)審査、筆記試験(編入希望年次別) 出題科目:「物質の構造」「薬学と有機化学」「個体と細胞」の3科目(ただし、「薬学の基礎としての生物」の内容を含む)、各科目から1問ずつ計3問出題。【1】 出題科目:「物性薬学科群」「分子薬学科群」「生命薬学科群」の3科目群6科目、各科目群から1問ずつ計3問出題。【1】	なし					なし
		平成25年度								0								
		計	2	4	2	0	0	0	8	—	—	—	—					
姫路獨協大学	医療薬学科	平成19年度							0					<p>本学では単位一括認定を行う事により、大学、短期大学、高等専門学校等を卒業あるいは卒業見込みの者に、出身校の学部・学科や分野を問わず編入学出願資格を認めています。また、一括認定に加えて、出身校において修得した単位を可能な限り個別に認定します。これは薬剤師資格取得を希望する者に、本学薬学部での学習機会を広く与えるためのものです。</p>	<p>出身大学で修得した単位を上限とし、薬学部教授会で単位認定を行います。各学年において、一括認定に加えて個別認定も行います。2年次:1年次配当科目等(45単位)を一括認定します。3年次:1、2年次配当科目等(62単位)を一括認定します。ただし生薬学、公衆衛生学Ⅰ、疾患薬理学Ⅰ(心臓・呼吸器系疾患等)は除きます。4年次:1、2、3年次配当科目等(117単位)を一括認定します。</p>	<p>① 入学後の学習がスムーズに行えるよう編入生向けのガイダンスを行い、担任教員も個別に指導する。 ② 2年次学生には1年次配当科目の履修を可能とする。 ③ 3年次学生には1、2年次配当科目の履修を可能とする。 ④ 4年次学生には1、2、3年次配当科目の履修を可能とする。</p>	現時点で特に課題等はありません。	
		平成20年度							0									
		平成21年度			3					3	教育学部、機械工学科、建築学科		なし					なし
		平成22年度			1					1	薬学科		なし					なし
		平成23年度				10				10	英語学科、国際資源管理学科、神学部、バイオサイエンス学科、電気工学科、国際文化学科、応用数学学科、建築学科、法学部、法律学科	学力試験(化学)、論文、面接	なし					なし
		平成24年度				2	4			6	英語英米文学科、国際経営学科(2年次) 総合科学科、物質科学科、創薬科学科、生物資源学科(3年次)		なし					なし
		平成25年度				2	2			4	人間社会学科、医学科(2年次) 生物工学科(3年次)		なし					なし
		計	0	18	6	0	0	0	24	—	—	—	—					

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数							出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計			平成23年度	平成24年度				
就実大学	薬学科	平成19年度							0					編入学の場合と同様に、異なる分野での学修状況と広い教養・経験を得ていることを評価する。しかし、本学では現在のところ理系学部は薬学部のみであるため、教養科目・外国語科目について、所定単位数が既修得であれば卒業要件を包括認定することとなる。	本学の転学部は教養科目・外国語科目の認定のみになると考えられることから、認定単位の上限は、既修得単位数並びに教養・外国語科目の進級要件単位数により決まる。 単位認定は、全学教務委員を含む薬学部教務関連委員会で検討し、全学教務委員会、薬学部教授会を経て決定される。	転入した学生の担任教員を中心に学修状況や成績を定期的に確認し、必要があれば補講・課題等の対応を行う。	本学では、薬学部のみが理系学部であり、他学部の専門科目の認定は困難であると考えられる。転学部を希望する学生がいても教養・外国語科目のみしか認定できないことから、1年次専門科目の認定ができないため、1年次に編入もしくは2年次仮進級という扱いになると思われる。これまで薬学部への転学部希望者は出ていないが、文系学部からの2年次編入学は4年制卒業を条件としていることから、これとの整合性についても今後検討する必要がある。
		平成20年度						0									
		平成21年度							0								
		平成22年度		4	2				6			なし	なし				
		平成23年度		1	2	1			4			なし	なし				
		平成24年度			4	3	1		8			なし	なし				
		平成25年度			3	2	1		6			なし	なし				
計		0	12	9	3	0	0	24	—	—	—	—					
福山大学	薬学科	平成19年度							0				これまで在籍していた学校で単位を取得した科目のシラバス記載内容と完全に、あるいはほぼ合致する福山大学薬学部のシラバス記載内容の科目について単位を認定している。その結果の単位取得状況により編入学してくる学年を決定している。	これまで在籍していた学校で単位を取得した科目の成績(優、良、可など)と同じ成績で単位を認定している。また、編入してくる学年より低学年の配当科目については、原則的にすべて単位を取得しているものとする一括認定をしている。単位は学部教授会で審議のうえ全学教務委員長に上申し認定される。	これまで在籍していた学校の成績票を考慮して、編入学年が福山大学薬学部の学生と比較して、理解度が低いと考えられる科目内容については担任と科目担当教員等が協力して勉学方法などを指導している。	平成27年度から実施される薬学教育モデル・コアカリキュラムの中で、各大学が独自に実施するアドバンス科目を、編入してくる学生にどのように単位認定していくかが今後の課題である。	
		平成20年度							0								
		平成21年度		1					1			なし					なし
		平成22年度		1	1	1			3			なし					4年次1名
		平成23年度		2	2				4			なし					なし
		平成24年度				1			1			なし					なし
		平成25年度					2		2			なし					なし
計		0	4	3	4	0	0	11	—	—	—	—					

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数						出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等	
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			計	平成23年度					平成24年度
徳島文理大学	薬学科	平成19年度															
		平成20年度				11					3年次7名	なし	編入試験に合格した編入生が既に他教育機関で修得した単位の認定(読み替え)は、編入した学年までに本学で開講された科目について読み替えることができる。編入した学年以降に開講される科目は認定せず、履修しなければならない。単位認定は、シラバスの内容の検討、比較などにより、認定案を作成し、編入学後に編入生担当教務委員が、編入生に他教育機関で修得した科目の内容について聞き取り調査を行い、単位認定可能な科目を決定する。単位認定不可で在学中履修できない科目の単位は、補講を受講し試験に合格すれば、修得できる。	2年次編入生の認定単位の上限は、1年次に修得できる単位数、3年次編入生の認定単位の上限は、1,2年次に修得できる単位数、4年次編入生の認定単位の上限は、1,2,3年次に修得できる単位数とする。他教育機関で修得した1単位は本学での1単位として認定する。ただし、他教育機関で修得した1科目2単位は、1単位ずつに分割、あるいは1単位科目を2科目あわせて2単位として認定する場合もある。編入生の単位の認定作業は、薬学部教務委員会が行い、薬学部教授会が承認する。	他学部から編入した場合、薬学専門科目について単位の認定が不可能な場合が多い。薬学部における専門科目を無理なく修得出来るように、単位認定されなかった科目については、編入した年度中に補講を開講し、編入生教育を行っている。補講は、平日の5時間目、6時間目に相当する夕方、夜間、土曜日あるいは夏季休業期間などを利用し、該当する講義に必要な時間(90分×15コマ)を確保し、その講義担当教員が行っている。また試験を行うことで、補講の単位認定をしている。ただし補講科目の単位は、卒業時までには修得すればよいこととし、進級判定には用いない。また、試験は科目担当教員と相談の上、いつでも、何度でも受けることが出来るよう配慮している。	学習面に関しては、例えば文系学部出身者で単位の認定がほとんど出来なかった編入生でも、現在行っている補講のシステムにより、十分に教育が可能であることが、これまでに実証されている。しかしながら、補講をしっかりと行う分、編入生の負担も大きくなる欠点もある。やる気のある編入生はよいが、編入のため、まわりの学生と馴染めず、学生生活に悩みをもつ編入生のケアが大切である。	
		平成21年度		4	5						なし	3年次4名					
		平成22年度		2	7	3						なし					4年次3名
		平成23年度		1	4	3						なし					なし
		平成24年度				4	7					なし					なし
		平成25年度			3	3	10					なし					なし
計		0	10	34	23	0	0	67		—	—						
									学力試験(化学、生物)、面接、書類審査								

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数						出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			計	平成23年度				
徳島文理大学 香川薬学部	薬学科	平成19年度							0				編入希望が申請された段階で編入生として受入れ可能な学年を判定するため、前大学における単位修得表の情報を基に、本学部の単位として認定できる科目を確認し、それを基に受け入れる学年を教務委員会が発案し、学部教授会で承認する。教養科目については、多彩な科目があることから、人文・社会・自然科学のカテゴリーの中で同名あるいは近縁の科目を認定する。専門科目については、内容と授業時間をシラバスで確認し、場合によっては科目担当者の意見を聞き、認定する。単独の科目で読替えできない場合は、複数の科目を1つの科目の単位として認定する。基本的に編入学年より下の学年までの科目を認定するが、出身学科に特徴的な科目については編入学年以上に配当される科目についても認定する。特に薬学部、医学部出身者には、科目の配当年次が本学と同一ではないこともあるので、内容的に一致していれば認定する。上記の認定においては、原則として、編入学年より下級学年までの必修の科目のうち、認定されていない科目数は本学部の進級規定で定められている科目数以下とする。ただし、実習科目については、その科目数に含めず、2科目以内であれば、原則的にその学年へ編入可能とする。	認定単位の上限は特に決めていないが、前述のように出身学科によって認められる範囲が異なっている。受験時の単位認定見込みに関しては、入試委員会と教務委員会が連携して判定する。合格後の正式な単位認定は、教務委員会が単位読替えの方針にしたがって科目読替えおよび編入後の科目受講指導案を作成し、教授会で検討し認定される。認定された単位は編入生に開示され、追加希望がある場合は、教務委員会での審査を経て教授会で認定されることもある。	ほとんどの編入生は下級学年の科目をいくつか取得する必要がある。時間割上編入学年の講義と重なる場合は、下級学年の科目を時間割外で受講させることにしている。また、実習については、土曜日や夏期休暇に実習担当講座で別途実施する。そのため科目あるいは実習担当者に別途を行うことを依頼している。重なった科目が選択科目の場合は、その時間下級学年の科目を受講させることにしている。教養科目は別途実施が困難なため、空き時間に他学部で受講する場合も認めている。進級要件に関して、編入生ということで通常の学生と区別してはいないが、時間割上どうしても受講できなかった科目については、進級判定時に考慮している。	
		平成20年度						0								
		平成21年度		4		1			5	なし	4年次1名					
		平成22年度		5	2	5			12	なし	4年次4名					
		平成23年度		2	1				3	なし	なし					
		平成24年度		3	1	1			5	なし	なし					
		平成25年度		6	3	3			12	なし	なし					
		計	0	20	7	10	0	0	37	—	—					
松山大学	医療薬学科	平成19年度							0			語学科目は、原則全て認定する。薬学専門科目および共通教育科目については、提出された先の大学のシラバスと本学のシラバスを照合して、本学で提供する科目と対応する科目について認定する。	単位認定は薬学部事務室と薬学部教務委員会が協力して行う。合格後、学生に認定したい科目を提示させ、提出された前大学のシラバスと本学のシラバスを照合しながら、単位を認定するかどうかが教務委員会案を作成する。その後、教授総会(講師以上による教員の会議)において審議し、決定する。	当該学生を担当するアドバイザー教員が中心となり、教務委員と協力しながらサポートする。薬学専門科目のうち認定した科目については、教科担当教員が面談し、必要に応じてサポートする。	薬学教育モデルコアカリキュラムを効果的に履修するために薬学専門科目(実習を含む必修科目)が1年次後期から開始されること、各学年における進級要件において各学年での薬学専門科目に含まれる実習科目の単位取得が必要条件であるため、現状では工学部や理学部など他学部から編入する場合、低学年(1年次あるいは2年次)に編入されることになる。3年次に受け入れるための工夫が今後必要である。	
		平成20年度						0								
		平成21年度							0							
		平成22年度							0							
		平成23年度	1						1	小論文、面接(口頭試問を含む)書類審査	なし					なし
		平成24年度							0							
		平成25年度	1	1					2	社会学部 社会学科(1年次)理学部 生物学科(2年次)	小論文、面接(口頭試問を含む)書類審査					なし
計	2	1	0	0	0	0	3	—	—							

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数							出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計			平成23年度	平成24年度				
第一薬科大学	薬学科	平成19年度							0			なし	なし	編入する学年の学修が可能かどうか慎重に判断したうえで判定している。具体的には、科目ごとに修得済の単位数が、本学の対応する科目の単位数と等しいかそれ以上であることをベースとし、修得済科目の内容が本学の教育内容と合っているかどうかについても、在籍していた大学のシラバス等を参考に判断している。	単位認定の上限は87単位を原則としている。教務委員会において単位認定を審査し、最終的には教授会で承認している。	入学が決まった時点で、教務部長がオリエンテーション等を活用して個別指導を行っている。また、担任教員に当該学生の状況を詳しく説明するなどきめ細かいフォローを実施している。	
		平成20年度		1	2				3	薬学科(2年次) 健康薬学科、薬学科(3年次)	書類審査、面接	3年次1名	2年次1名				
		平成21年度							0			なし	なし				
		平成22年度		3	1				4	薬学科、薬学科、薬学科(2年次) 薬剤学科(3年次)	書類審査、面接	なし	なし				
		平成23年度		4		1			5	医療薬学科、薬学科、薬学科、薬学科(2年次) 健康薬学科(4年次)		なし	なし				
		平成24年度		1		1			2	薬学科(2年次) 健康薬学科(4年次)		なし	なし				
		平成25年度							0								
計	0	9	3	2	0	0	14	—	—	—	—						
長崎国際大学	薬学科	平成19年度							0					<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位認定の考え方 教育上有益と認められるとき、入学前に他大学で修得した単位を付与する。</li> <li>・基準 2年次 平成22年度から、医療保健、農学、理学、工学系の大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者を対象としている。</li> <li>3年次 平成24年度から、医学部または歯学部の卒業生及び見込みの者を対象としている。</li> <li>4年次 薬学部薬科学科(4年制)を卒業した者及び見込みの者を対象とする。</li> <li>・方針 出願に当たっては、出身大学からの成績証明書、単位修得証明書、シラバスを提出させ単位認定を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定単位の上限 全学共通科目については、2年次・3年次・4年次とも、卒業要件単位数30を一括認定。学科専門科目では、2年次では、45単位を超えない範囲で個別読替え。3年次では、62単位を超えない範囲で個別読替え。4年次では、3年次までの開講科目の単位を審査の上、94単位を超えない範囲で一括認定する。</li> <li>・単位認定を行う組織 教授会</li> </ul>	入学時のオリエンテーション及び学期末毎に履修計画等について指導教員による個別指導を行っている。また、編入学生の単位修得に支障を来さないように時間割り編成を考慮するとともに、教育上の配慮を優先した進級要件を策定している。	
		平成20年度						0									
		平成21年度		1					1	総合経済学科	書類審査、筆記試験(化学)、小論文 面接	なし	なし				
		平成22年度							0								
		平成23年度		1					1	医学科	書類審査、筆記試験(化学)、小論文 面接	なし	なし				
		平成24年度				1			1	創薬科学科	書類審査、面接(口頭 試問含む)	なし	なし				
		平成25年度		4					4	自然情報科学科、電子工学科、食料生産科学科、理学科	書類審査、筆記試験(化学)、小論文 面接	なし	なし				
		計	0	6	0	1	0	0	7	—	—	—	—				
九州保健福祉大学	薬学科	平成19年度							0					2年次編入は1年次、4年次編入は1～3年次の開講科目のうち、2・4年次に進級するのに必要な基礎・専門教育科目の卒業要件単位数を、包括的に認定する。	認定する単位の上限 2年次編入:40単位 4年次編入:120単位  単位認定を行う組織 学務委員会の議を経て、教授会で決定する。  認定の方法 基礎科目・専門教育科目それぞれに、包括的に認定する。	通常の学生とは別に、編入学生対象のオリエンテーションを実施し、履修指導を行っている。	
		平成20年度						0									
		平成21年度							0								
		平成22年度				1			1	創薬・生命薬科学科	書類審査、面接	なし	4年次1名				
		平成23年度		2		3			5	生体工学科、保健学科(2年次) 創薬・生命薬科学科、創薬科学科(4年次)	小論文、面接	なし	なし				
		平成24年度				1			1	創薬・生命薬科学科		なし	なし				
		平成25年度		3		3			6	環境科学科、栄養学科、人間コミュニケーション学科(2年次) 創薬・生命薬科学科、薬科学科(4年次)		なし	なし				
		計	0	5	0	8	0	0	13	—	—	—	—				

大学名	学科名	編入学年度	編入学生数						計	出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次				平成23年度	平成24年度				
合計	平成19年度	2	21	/	/	/	/	23			2年次16名	1年次2名 2年次3名					
	平成20年度	0	23	23	/	/	/	46			3年次13名	2年次14名 3年次1名					
	平成21年度	0	28	16	2	/	/	46			なし	3年次8名 4年次1名					
	平成22年度	0	46	30	13	0	/	89			なし	4年次12名					
	平成23年度	1	61	22	29	0	0	113			なし	なし					
	平成24年度	0	50	27	32	0	0	109			なし	なし					
	平成25年度	1	46	25	42	0	0	114			なし	なし					
	計	4	275	143	118	0	0	540	—	—	—	—					



大学名	学科名	受入年度	転学部学生数						出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等	
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			計	平成23年度					平成24年度
新潟薬科大学	薬学科	平成19年度			/	/	/	/					<p>転学部後次年次への進級に支障がないよう、転学部試験合格後(転学部前)に、転学部年次を決定している。現在2年次への受入れのみであるが、2年次への進級要件(必修科目の未修得単位数が5単位を超えた場合は進級できない)及び卒業要件の一部(教養選択科目3単位以上修得)と照らして、必修科目29単位中23単位以上、教養選択科目1単位以上を履修済みとして認定できる場合に、2年次への編入を認めている。</p> <p>履修済みか、否かの判定基準(履修認定基準)は、①本学部科目と前所属学部における既修得科目のシラバス記載の授業計画のうち7割以上の授業において授業内容の一致がみられる科目であること、または②本学部科目と前所属学部における既修得科目のシラバス記載の学習到達目標(SBOs)のうち7割以上のSBOsにおいて一致が見られることとする。本学部履修規程で、定期試験の受験資格を3分の2以上の授業の出席と規定していることから、単位認定試験受験資格、すなわち履修認定基準で7割以上と定めている。</p> <p>転学部後に、履修認定科目の単位認定を行う。当該科目の担当者による学力検査で60%以上、または前所属学部での試験の答案等で当該科目の試験の単位認定基準(60%以上)と同等の学力を修めているかを確認し、相当と認めた場合に、合格として単位認定する。</p> <p>認定基準に達しず、単位認定されなかった科目については、再履修して修得しなければならない。</p> <p>結果的に、知識に関する学習領域と技能に関するものの一部については履修認定・単位認定をし、態度の学習領域に関する授業や薬学準備教育に関する授業は転学部後に履修することとなる。</p>	<p>教務委員会において、提出された既修得科目のシラバスと本学部シラバスを照らし合わせて、教授会で決定された前術の履修認定基準に従って、転学部年次を判定し、教授会での審議を経て決定する。</p> <p>単位の認定は、履修認定された科目ごとに科目担当教員が試験(実技試験等を含む)を行う、または前所属学部での試験の答案等を確認し、当該科目の単位認定基準に学力が到達しているかを判定する(この場合、口頭試問等の方法により学力確認を行う場合もある)。その後、教務委員会及び教授会の議を経て決定する。</p>	<p>履修認定されなかった1年次科目については、当該学生の授業の行われていない時間に、集中講義形式等で別途授業を行う。また、転学部後に別途受講が難しい実習科目等については、転学部前の春休みに実習を行うなど、2年次に未履修の科目がないよう配慮している。</p> <p>履修認定された科目及び単位認定された科目についても、時間に余裕がある場合は、積極的に聴講するよう指導している。また、本人の希望があれば、単位認定された科目についても再履修を認めている。</p>		
		平成20年度			/	/	/	/									
		平成21年度					/	/									
		平成22年度						/									
		平成23年度															
		平成24年度															
		平成25年度		2						応用生命科学部 応用生命科学 科、応用生命科学部 応用生命科学科	学力試験(化学、英語)、面接、書類審査	なし					なし
		計	0	2	0	0	0	0	2	-	-	-					-
神戸学院大学	薬学科	平成19年度			/	/	/	/					<p>転学部前に修得した共通教育科目はすべて単位認定。専門教育科目については、薬学部カリキュラムに設置されている科目に関する科目を個別に認定</p>	<p>認定する単位の上限はなく、薬学部教授会の審議により単位認定を行う。</p>	<p>現在は特に行っていないが、今後、該当者があれば、以降の薬学部での講義等についていけるよう、不十分な部分について予備的な補講、カリキュラム開始後の補講などを設ける必要がある。</p>		
		平成20年度			/	/	/	/									
		平成21年度					/	/									
		平成22年度	2					/	人文学部 人間 心理学科・経済 学部	筆記試験(英語、化学)、面接	なし	なし					
		平成23年度															
		平成24年度															
		平成25年度															
		計	2	0	0	0	0	0	2	-	-	-					-

大学名	学科名	受入年度	転学部学生数						出身学科	選抜方法	卒業状況		単位認定の考え方、基準	単位認定方法等	指導、教育上の配慮等	今後の課題等
			1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次			計	平成23年度				
崇城大学	薬学科	平成19年度		1					1	応用生命科学科	学力試験(英語)面接書類審査(高校時評定平均、大学成績等)	なし	2年次1名	<p>学則上、転学部は原則として2年次となっている。(8の今後の課題等で触れるような取り組みが進められれば、転学部年次に柔軟性が持たせられると考える)</p> <p>基本的には1年次の一般教養科目が該当するが、転学部元と転学部先の学部で事前に協議を行い詳細を決定することで運用している。認定する単位の上限は特に制限していない。1、2年次の全学共通一般教養科目は、そのまま単位の認定をしている。専門基礎科目と専門科目は、薬学部の教務委員会が中心となって、転学部元と転学部先(薬学部)のシラバスや科目担当教員の意見を基に、認定(読み替え対応)が適当であるかどうかを検討し、その結果に基づいて認定をしている。</p> <p>転学部学生に対しては、担任がきめ細かい履修指導をするように心がけている。</p>	<p>転学部対象学年に欠員がでなかった場合においても、若干名の転学部が出来るような仕組み作りが望まれる。(欠員がでるか否かは年度末の進級判定結果を待たねばわからないが、転学部希望学生に転学部枠の有無を伝えるのは、それよりもかなり前であるべきと考えるので。)転学部対象学年より低学年次の転学部先必修科目に、読み替え対応ができない科目が若干ある場合に、それを転学部時あるいはそれ以降の早い時期に特別に履修する仕組みがあれば、転学部がより現実的になる。</p>	
		平成20年度						0								
		平成21年度							0							
		平成22年度							0							
		平成23年度							0							
		平成24年度							0							
		平成25年度							0							
		計	0	1	0	0	0	0	1	-	-	-	-			
合計		平成19年度	0	1							なし	2年次1名				
		平成20年度	0	0					0		なし	なし				
		平成21年度	0	0					0		なし	なし				
		平成22年度	2	0					2		なし	なし				
		平成23年度	0	0					0		なし	なし				
		平成24年度	0	0					0		なし	なし				
		平成25年度	0	2					2		なし	なし				
		計	2	3	0	0	0	0	5	-	-	-	-			